

授業科目 NO. 507 ウィメンズヘルス看護学実習

Women's Health Nursing Practicum

授業の形態： 実習
単位数（時間数）： 2単位（90時間）
開講年次・学期： 3年次・前後期
必修・選択の別： 必修
キーワード： ライフサイクル、周産期、看護過程の展開、健康の保持・増進、倫理的配慮、社会資源、他職種連携

1 金沢医科大学看護学部の到達目標（全科目共通です）

- ① 豊かな人間性と倫理観
- ② 看護学の知識と技術、及び実践力
- ③ 地域志向を視野に入れた専門性の獲得
- ④ 生涯学習能力
- ⑤ 国際的視野の獲得

2 学修目標

1) 一般目標（GIO）

周産期にある母子とその家族、および女性特有の疾患を持つ女性を対象に、身体的、心理・社会的側面から総合的にアセスメントし、個別的特性に応じた看護を提供する基礎的な実践能力を修得する。また、そのための多職種との連携や社会資源の活用について学修する。

2) 行動目標（SBO）※カッコ内の数字は上記の金沢医科大学看護学部の到達目標との関連を示す。

- (1) 対象の身体的・心理的・社会的側面及び家族環境を統合した看護過程を展開できる。
(①②③)
- (2) 多様なライフスタイルを持つ母子や女性を理解し、対象の健康を保持・増進するために必要な保健指導とケアを提供できる。(①②③)
- (3) 対象一人一人を尊重し、倫理的配慮をもって看護を実践できる。(①②)
- (4) 対象を支える社会資源や多職種との連携について説明できる。(②③)
- (5) 学生としての自覚を持ち、誠実な姿勢で実習に取り組むことができる。(①)

3 学修内容

実習の内容については、実習要項に示す。

4 評 価

評価項目	評価割合
定期試験成績	%
実習成績	100%
レポート	%
授業態度	%
小テスト	%
口頭試問	%
その他	%
合計	100%

5 教育担当者

科目責任者：山崎 智里

教 授	神崎 光子 (母性看護学・助産学)
准 教 授	山崎 智里 (母性看護学・助産学)
嘱託准教授	北濱 まさみ (母性看護学・助産学)
講 師	三反崎 宏美 (母性看護学・助産学)
助 教	大嶋 舞香 (母性看護学・助産学)
助 手	土合 しおり (母性看護学・助産学)
助 手	丸山 早紀 (母性看護学・助産学)

6 教育担当者の実務経験

担当教員は助産師としての実務経験を有している。

7 教 科 書

ウイメンズヘルス看護学概論、疾病・治療論Ⅶ、ウイメンズヘルス看護学方法論Ⅰ・Ⅱの教科書及び講義資料

8 推 薦 参 考 書

ウイメンズヘルス看護学概論、疾病・治療論Ⅶ、ウイメンズヘルス看護学方法論Ⅰ・Ⅱで紹介した推薦参考書

9 準備学修に必要な時間及び具体的な学修内容

- 1) 実習開始日に事前課題を提出すること。
- 2) ウイメンズヘルス看護学概論、ウイメンズヘルス看護学方法論Ⅰ及びⅡの講義資料を復習しておくこと。
- 3) ウイメンズヘルス看護学方法論Ⅱで作成した看護過程展開用紙を見直し、復習しておくこと。

- 4) ウィメンズヘルス看護学方法論Ⅱで学修した看護技術を繰り返し練習し、鍛錬して実習に臨むこと。
- 5) 学内オリエンテーションまでに必ず実習要項を熟読し、準備学修をして臨むこと。

10 課題（試験やレポート等）に関するフィードバック

実習記録は毎日確認し、コメントする。また、実習内容や記録、カンファレンスをもとに、日々、実習目標の達成状況と課題を確認し、その都度フィードバックする。

11 履修上の注意事項

- 1) 疑問点や困っていることは自ら表現する。そして、主体的に課題を明確化し、解決に向けた姿勢で実習に臨むこと。
- 2) カンファレンスは、メンバー間で協力し、積極的な姿勢で取り組むこと。
- 3) 健康管理には十分注意し、看護学部臨地実習の要項に準じた対応を行うこと。
- 4) 看護学生として自覚と責任のある行動をとり、看護学部臨地実習の要項「実習に関わる個人情報および実習施設に関する情報(機密保持)等の取り扱い」を理解し、厳守の上、実習に臨むこと。

12 オフィスアワー等

担当教員が実習時に質問を受ける。また、実習オリエンテーション時に担当教員への連絡方法を伝達する。

科目責任者には、メールで連絡すること。

山崎 E-mail : chisasa@kanazawa-med. ac. jp